

平成30年度 核兵器廃絶市民講座

核兵器のない 世界をめざして

受講料

無料

事前申込

不要

全6回で開講いたします。一緒に核兵器廃絶に向けて考えましょう。

第2回目は森岳公民館(島原市)で行います。

*会場・時間はいずれも下記のとおりです

1	2018年 5/26(土)	北東アジアの非核化と 安全保障	鈴木達治郎 RECNAセンター長
			広瀬 訓 RECNA副センター長
			中村 桂子 RECNA准教授
2	6/23(土)	核兵器禁止条約をめぐる 日本の課題:賢人会議の提言	朝長万左男 RECNA客員教授 ナガサキ・ユース代表団6期生 会場:森岳公民館(島原市)
3	9/22(土)	在日米軍と北東アジアの安全保障	梅林 宏道 RECNA客員教授
4	11/3(土)	岐路に立つ日本の非核	太田 昌克 共同通信編集委員/RECNA客員教授
5	12/1(土)	反戦主義者なる事通告申し上げます	森永 玲 長崎新聞論説委員長/RECNA客員教授
6	2019年 1/26(土)	核廃絶寸前 レイキャビク首脳会談の教訓	吉田 文彦 RECNA副センター長



1 鈴木達治郎



1 広瀬 訓



1 中村 桂子



2 朝長万左男



3 梅林 宏道



4 太田 昌克



5 森永 玲



6 吉田 文彦

時間 13:30~15:30

(15:30~16:30「RECNAと語ろう」)

1 3 4 5 6 会場

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館
交流ラウンジ(地下2F)

住所: 〒852-8117 長崎県長崎市平野町7-8
電話: 095-814-0055

追悼平和祈念館へのアクセス

【JR長崎駅から】

■ 市内電車

赤迫行(系統番号1または3)で浜口町下車徒歩4分

■ バス

滑石・時津・女の都方面行で浜口町下車徒歩4分

*専用駐車場はございませんので、

当日は公共交通機関をご利用ください

2 会場

森岳公民館

住所: 〒855-0036 長崎県島原市城内1丁目1177
電話: 0957-63-2242

森岳公民館へのアクセス

島原駅出口から徒歩約7分

島鉄本社前駅出口から徒歩約19分

主催

核兵器廃絶
長崎連絡協議会
PCU-Nagasaki Council

共催

RECNA
長崎大学核兵器廃絶研究センター

お問合せ

核兵器廃絶長崎連絡協議会 事務局

〒852-8521 長崎市文教町1-14

Tel. 095-819-2252 / Fax. 095-819-2165

URL <http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/pcu/>

第1回 核兵器廃絶市民講座「北東アジアの非核化と安全保障」

日 時： 2018年5月26日(土)13:30～15:30

場 所： 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講 師： 鈴木 達治郎（RECNA センター長）

広瀬 訓 （RECNA 副センター長）

主 催： 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共 催： 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

講演する鈴木センター長



講演する広瀬副センター長



平成30年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界をめざして」の第1回目が5月26日(土)に国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジにて行われました。「北東アジアの非核化と安全保障」と題し、長崎大学核兵器廃絶研究センターの鈴木達治郎センター長及び広瀬訓副センター長が講師を務めました。

講演は三部構成で行われ、第一部は、核の傘(核抑止戦略)に依存している国で、核を持っていない国が核兵器の廃絶に向けてどのような役割を果たすべきかを、第二部では、北東アジアの非核化と平和を目指すための信頼醸成の進め方(特に、非政

府間の外交「トラック2」のありかた)をテーマに広瀬先生が講演を行いました。次に第三部では、非核化の検証について、冒頭にレーガン大統領の「信ぜよ、しかし検証せよ」の言葉を用い、100%の検証は不可能であるが、検証の措置があることによって違反を抑止することができることや、北朝鮮の非核化の検証には新しい枠組が必要なことなど、その重要性をテーマに鈴木先生が講演を行いました。さらに今話題となっている、米・北朝鮮首脳会談、「板門店宣言」等、最近の核情勢や、RECNA が取り組んでいる「北東アジアの平和と安全保障に関するパネル」(PSNA)の活動についても解説を行いました。

講座には約90名の市民が集まり、講演後の「RECNA と語ろう」では、講演の内容や学生がスイス・ジュネーブで行われた「2020年核不拡散条約再検討会議第2回準備委員会」で経験したことについて RECNA 教員と参加された市民・学生による熱い意見交換が行われました。

会場の様子



第2回 核兵器廃絶市民講座

「核兵器禁止条約をめぐる日本の課題:賢人会議の提言」

日 時: 2018年6月23日(土)13:30~15:30

場 所: 森岳公民館(島原市)

講 師: 朝長万左男(RECNA 客員教授/原爆病院名誉院長)

ナガサキ・ユース代表団6期生

主 催: 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共 催: 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

講演する朝長先生



ナガサキ・ユース代表団6期生



平成30年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界をめざして」の第2回目が6月23日(土)に森岳公民館(島原市)にて行われました。

「核兵器禁止条約をめぐる日本の課題:賢人会議の提言」と題し、朝長万左男先生(RECNA 客員教授/原爆病院名誉院長)が講師を務め、講演に引き、ナガサキ・ユース代表団第6期生と朝長先生を囲んでの意見交換会も行いました。

第一部の講演は、賢人会議委員の日本人委員の一人だからこそ語れる「賢人会議」設立経緯の本当のところを講演で述べられました。設立に際し、「周囲は『結局は日本政府に利用されるのではないか』という意見も多かったが、よくよく考えると外務省や政府に物が言えるチャンスはそうない」と、朝長先生の心の動きと共に設立の過程を知れる講演でした。他に、島原での講演ということで原爆が島原に与えた影響やその報告書がアメリカの国立公文書館にあったことなども話されました。

第二部のナガサキ・ユース代表団第6期生と朝長先生を囲んでの意見交換会では、学生の率直な意見が市民の皆さんの関心を呼んでいました。「賢人会議のテーマが『橋渡し』というが、橋を渡すということは間には溝がある。ならばその溝を埋めるほうがよいのではないか。」という斬新な意見もあり、意見交換会はおおいに盛り上がりました。

講座には約115名の市民が集まり、講演後の「RECNA と語ろう」では、市民・学生による熱い意見交換が行われました。

会場の様子



第3回 核兵器廃絶市民講座 「在日米軍と北東アジアの安全保障」

日 時： 2018年9月22日(土)13:30～15:30

場 所： 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講 師： 梅林 宏道(RECNA 客員教授/ピースデポ特別顧問)

主 催： 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共 催： 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

講演をする梅林先生



会場の様子



平成30年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界をめざして」の第3回目が9月22日(土)に国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジにて行われました。「在日米軍と北東アジアの安全保障」と題し、梅林宏道先生(RECNA 客員教授/ピースデポ特別顧問)が講師を務めました。

梅林先生は講演の冒頭で、「今ほど、在日米軍や在韓米軍が何のために日本に在るのかということがシンプルに見えてくる時はないのではないかと。北朝鮮も韓国も中国も、朝鮮戦争を正式に終わらせようといっているが、米国だけが「まだ終わらせたくない

い」。それはなぜか。ある意味、朝鮮戦争の継続が米国にとってメリットがあるということを表している。

今の情勢をシンプルに考えるとそこを突き詰めることが、なぜ、在韓米軍、在日米軍がいるのかを考える非常にわかりやすい入り口となる。今日はそういう問題意識をもって、朝鮮半島情勢を念頭においた在日米軍と北東アジアの安全保障について考えたい。」と述べられた。そして、米朝首脳会談の意義を強調されたうえで、「朝鮮戦争の停戦協定と在韓」、「在日米軍の関係」、「在日米軍駐留をめぐる日本の「異常」な解釈」及び「在日米軍と在韓米軍の規模と定義の変遷」について講演されました。

講座には約80名の市民が集まり、講演後の「RECNA と語ろう」では、市民・学生による意見交換が行われました。

第4回 核兵器廃絶市民講座 「岐路に立つ日本の非核」

日 時： 2018年11月3日(土)13:30～15:30

場 所： 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講 師： 太田 昌克(RECNA 客員教授/共同通信編集委員)

主 催： 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共 催： 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

講演する太田先生



会場の様子



平成30年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界をめざして」の第4回目が11月3日(土)に国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジにて行われました。

「岐路に立つ日本の非核」と題し、太田昌克先生(RECNA 客員教授/共同通信編集委員)が講師を務めました。

太田先生は冒頭で、トランプ米大統領が中距離核戦略(INF)廃棄条約からの離脱方針を示したこと及び核兵器廃絶決議が採択されたことについて触れ、その中で河野外務大臣が「日本は核保有国と非核保有国の橋渡した」と発言しながらも日本政府

が核兵器禁止条約に反対したのは日本政府の核抑止力、核の傘への依存を深めていることを明らかにするものであると述べました。また、歴史的な米朝首脳会議の立役者として二人(韓国国家情報院長の徐薫(ソ・フン)氏と北朝鮮労働党統一戦線部の金英哲(キム・ヨンチョル)氏)の名をあげて会談の背景を分析しました。今後の情勢については、「インテリジェンス」「神のmant」「ねじれ」といったキーワードを用いて、記者の目線で最新動向を解説されました。最後に「日本政府の秘密メモとトランプ政権の NPR(核態勢見直し)」を比較して、日本の核抑止力依存政策と米国の核政策の関係について講演されました。

講座には約60名の市民が集まり、講演後の「RECNA と語ろう」では、市民・学生による意見交換が熱く行われました。

第5回 核兵器廃絶市民講座 「反戦主義者なる事通告申し上げます」

日 時： 2018年12月1日(土)13:30～15:30

場 所： 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講 師： 森永 玲 (RECNA 客員教授/長崎新聞論説委員長)

主 催： 核兵器廃絶長崎連絡協議会 (PCU-NC)

共 催： 長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

講演する森永先生

会場の様子



平成30年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界をめざして」の第5回目が12月1日(土)に国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジにて行われました。

「反戦主義者なる事通告申し上げます」と題し、森永玲先生(RECNA 客員教授/長崎新聞論説委員長)が講師を務めました。

森永先生が、その生涯について調査取材したのは、明治時代に長崎県で生まれた医学者、末永敏事の生涯。当時「死の病」として恐れられていた結核の専門家として米

国で活躍した研究者だが、帰国後は日中戦争に反対し、結核医として軍隊業務につくことを拒否した。その結果、投獄され、不遇のまま終戦の年である1945年に生涯を終えた。森永先生はこの先人が志した平和主義を丹念に取材し、そこから見えてきたことなどについて講演しました。

講座には約70名の市民が集まり、講演後の「RECNA と語ろう」では、講演内容や平和教育について市民・学生による意見交換が行われました。

※本講演会の内容は講演者及び対談者個人の意見を表すものであり、主催団体及び共催団体等の見解を示すものではありません。

第6回 核兵器廃絶市民講座

「核廃絶寸前:レイキャビク首脳会談の教訓」

日 時: 2019年1月26日(土)13:30~15:30

場 所: 国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講 師: 吉田 文彦(RECNA 副センター長)

主 催: 核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共 催: 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

講演をする吉田先生



会場の様子



平成30年度核兵器廃絶市民講座「核兵器のない世界をめざして」の第6回目が1月26日(土)に国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館交流ラウンジにて行われました。

「核廃絶寸前:レイキャビク首脳会談の教訓」と題し、吉田文彦先生(RECNA 副センター長)が講師を務めました。

吉田先生は講演の最初に、この1年の間に米朝首脳会談や日韓首脳会談が行われ、「首脳会談で核問題が動く」という現実が目の前で起こった。そこでこの機会にレイキャビクを取り上げ、最近の動きを念頭に置きながら33年前の1986年の米ソ首

脳会談について考え直してみるのには新たな意味を持つのではないかと述べ、レイキャビク首脳会談までの状況、その会談が何であったのか、また、そこから見えてくる大事なことは何なのかを講演されました。

講座には約50名の市民が集まり、講演後の「RECNA と語ろう」では、市民・学生による意見交換が行われました。

※本講演会の内容は講演者及び対談者個人の意見を表すものであり、主催団体及び共催団体等の見解を示すものではありません。